

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
原	ゲン はら たずねる もと ゆるす								元暦萬葉① 王勃詩序
原									元暦萬葉① 于景墓誌
原									元暦萬葉① 道因法師碑
厩	キユウ うまや								元暦萬葉③ 春秋穀梁伝 集解
厩	②								元暦萬葉③ 五経・广部
厨	ズ チュウ くりや								元暦萬葉③ 干祿字書
厨	②								元暦萬葉③ 五経・广部
厭	エン・オン あきる・いや おさえる								元暦萬葉③ 等慈寺碑
厭	①								元暦萬葉③ 五経・广部
厭									元暦萬葉③ 道因法師碑
厭									元暦萬葉③ 性靈集
厭									元暦萬葉③ 寶林 金剛兜摩尼經

【原】説文にある「厂+泉泉」の字体の例が見つからない。古代の文字を見ると「泉」に角(つ)はついていない。角をつけるのは字体の差ではなく、説文の様式の差なのではないだろうか。干祿字書では角ありを〈正〉、角なしを〈俗〉とする。

【厩】この字は元々「广」の字らしい。説文を根拠とすれば五経文字の字体が正(統)字(体)ということになるだろう。文部省活字は干祿字書でいう〈俗〉を採用している。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
原	原	原	原	原			原	原	原	原	原	原
原	原	原	原	原			原	原	原	原	原	原
原	原	原	原	原			原	原	原	原	原	原
原	原	原	原	原			原	原	原	原	原	原
原	原	原	原	原			原	原	原	原	原	原
厩	厩	厩	厩	厩			厩	厩	厩	厩	厩	厩
厩	厩	厩	厩	厩			厩	厩	厩	厩	厩	厩
厩	厩	厩	厩	厩			厩	厩	厩	厩	厩	厩
厩	厩	厩	厩	厩			厩	厩	厩	厩	厩	厩
厨	厨	厨	厨	厨			厨	厨	厨	厨	厨	厨
厨	厨	厨	厨	厨			厨	厨	厨	厨	厨	厨
厨	厨	厨	厨	厨			厨	厨	厨	厨	厨	厨
厨	厨	厨	厨	厨			厨	厨	厨	厨	厨	厨
厨	厨	厨	厨	厨			厨	厨	厨	厨	厨	厨
厭	厭	厭	厭	厭			厭	厭	厭	厭	厭	厭
厭	厭	厭	厭	厭			厭	厭	厭	厭	厭	厭
厭	厭	厭	厭	厭			厭	厭	厭	厭	厭	厭
厭	厭	厭	厭	厭			厭	厭	厭	厭	厭	厭
厭	厭	厭	厭	厭			厭	厭	厭	厭	厭	厭

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嚴	ゲン ゴン おごそか まびしい								経6帯①
嚴	人②								
去	キヨ さる								教3帯①
去									
參	サン シン まいる まじわる								教4帯①
參	②								
又	ユウ また ふたたび								常①
又	人①								

【又】金文には「右」という意味で「又」を用いている例がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころこ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												严 中国
												嚴 台湾・香港
												去 中国・台湾
												去 香港
												参 中国
												参 台湾
												参 香港
												又 中・台・香
												又 中・台・香

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
及	キユウ およぶ およぶ およぼす								
及									
双	ソウ ふた たらふ・ふ たつ・たぐ い・もろ								
雙									
反	ハン タン ホン そらす そる								
友	ユウ とも								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
及	及	及	及	及			及	及	及	及		及 中国
及		弓										及 台湾
		遼										及 香港
雙	雙	双	双	双	双		双	双	双	双		雙 奈良・大聖武 中国
雙		雙	雙				雙(雙)					雙 台湾 雙 香港
反	反	反	反	反	反		反	反	反	反		反 中国
		反										反 台湾・香港
友	友	友	友	友	友		友	友	友	友	友	友 干祿(俗) 中・台・香
友		友										
		習										
		犂										
		習										

【双】「双」と「雙」は通用するが、「双」はそれほど古い字ではなさそうだ。上代に「あめかんむり」に作る字がある。平安時代に小野道風が屏風土台で2種の字体を使っている。江戸期以降は「雙」よりも「双」の方が隆盛。弘道軒四号には「双」だけがあり「雙」がない。弘道軒三号には「雙」があ

る。  
【友】1字に2カ所の右払いがある張猛龍碑は例外中の例外。甲骨①や毛公鼎を楷書にすると「双」と字体が衝突する。

※当用漢字字体表の下の○は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期				
収	シュウ おさまる おさめる		睡虎地秦簡	銀雀山竹簡	武威漢簡	智永千字文	興福寺斷碑	元藏墓誌 等慈寺碑	干祿・文部	王勃詩序			
收	人②		包山楚簡	馬王堆	曹全碑		元虞弘温涼頭 王居士塔塔銘	五經・文部		王勃詩序			
				居延漢簡			于景墓誌 信行禪師碑						
				居延漢簡			登龍廟碑						
取	シュ とる	甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文・文部	馬王堆	桐柏廟碑	漢時帖	漢時帖	元藏墓誌 九成宮	干祿字書	王勃詩序	
		甲骨	毛公鼎	郭店楚簡		馬王堆	熹平石經	十七帖	蘭亭叙	于景墓誌	皇甫誕碑	五經・文部	
				子彈庫楚帛		居延漢簡		十七帖					
受	ジュ うかる うける	甲骨	大孟鼎	睡虎地秦簡	説文・文部	馬王堆	敦煌漢簡	澄清堂帖	集字聖教序	中岳高平碑	孔子廟堂碑	干祿字書	王勃詩序
		甲骨	毛公鼎	郭店楚簡		居延漢簡	壺臺碑			市比干墓文	雁塔聖教序	五經・爪部	
		甲骨				居延漢簡	桐柏廟碑			奚智墓誌			
叔	シュク わかい		大克鼎	睡虎地秦簡	説文・文部	馬王堆	禮器碑	十七帖	唐・太宗	黃夫人墓誌	皇甫誕碑	干祿字書	王勃詩序
				金文	説文或体	馬王堆	曹全碑			元珍墓誌		五經・又(義文)	瑯玉集
			侯馬盟書			馬王堆				劉碑造像記		五經・又(石經)	杜家立成
										元熙墓誌			

【収】康熙字典と『三省堂漢辭海』は又の2画。『角川新字源』と『JIS漢字字典』は又の3画だが、「収」の異体字の「収」はなぜか支の2画になっている。『JIS漢字字典』は『角川新字源』に倣っているようだ。本書では又の2画とした。旁は本来は「支=攴」で、説文はその字体。陸軍幼年学校の用字便

覧では、旁を「支」とする字体を本字とする。我が国の常用漢字の字体「収」は五經文字によれば〈訛〉。  
【受】睡虎地秦簡は「又」の上に「一」があり、この字体は漢代まで受け継がれている。さらにその字体が「攴」に受け継がれているのかもしれない。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
収	収	収	収	収	収	収	収	収	収	収	収	収	収
安宅切	算法地方大成	又2		こころ	陸軍(正体)	許容体				○		干祿(通)	中国・台湾
久松切	節用	支2			陸軍(別体)	標準体						収	収
												収	収
墨流本朗詠					陸軍(本字)							収	収
												収	収
												収	収
取	取	取	取	取				取	取	取	取	取	取
元曆萬葉①	節用	又6		坊っちゃん								干祿(通)	中・台・香
取	取											取	取
元曆萬葉①	節用											取	取
受	受	受	受	受				受	受	受	受	受	受
元曆萬葉①	算用地方指南	又6		坊っちゃん								干祿(俗)	中・台・香
												受	受
小笠原諸礼大全		古文		坊っちゃん								受	受
叔	叔	叔	叔	叔				叔	叔	叔	叔	叔	叔
粘葉本朗詠	消息往来	又6		こころ								干祿(通)	中・台・香
叔													
墨流本朗詠													

【叔】説文に旁が「又」と「寸」の2種がある。五經文字で〈石經〉となっている字体は、通用字体よりも点が1つ少ない。この字体は拓本版の干祿字書にもある。

